

# 慢性疾患対策の課題

# 糖尿病についての概況(例示)

健康日本21

特定健診・保健指導

医療計画

医療機関同士の連携が不十分

地域連携

専門的な診療

効率的・効果的な普及・啓発が不十分

糖尿病の可能性が否定できない者

1,320万人

糖尿病が強く疑われる者

890万人

疾病対策に社会全体で取り組むことが必要

受療者

コントロール良好 (HbA1C < 6.5%)

治療中断率が高い

未受療者  
受療中断

コントロール不良

合併症高リスク

- ・糖尿病性腎症による腎不全(人工透析) 87,835人 (新規15,750人/年)
- ・糖尿病性網膜症による失明 約3,000人/年
- ・糖尿病による足壊疽 約8万人
- ・虚血性心疾患の総患者数 約86万人

合併症予防が不十分

国民

1.2億人

健診の受診率が低い

健診

健診後の受療率が低い

保健指導

- (発症予防の取組)
- ・生活習慣の改善指導

## 外来患者数上位30疾患

1. 筋骨格系および結合組織の疾患・・・10疾患

---

---

2. 眼科疾患・・・4疾患

3. 消化器疾患・・・2疾患

4. 前立腺肥大症・・・1疾患

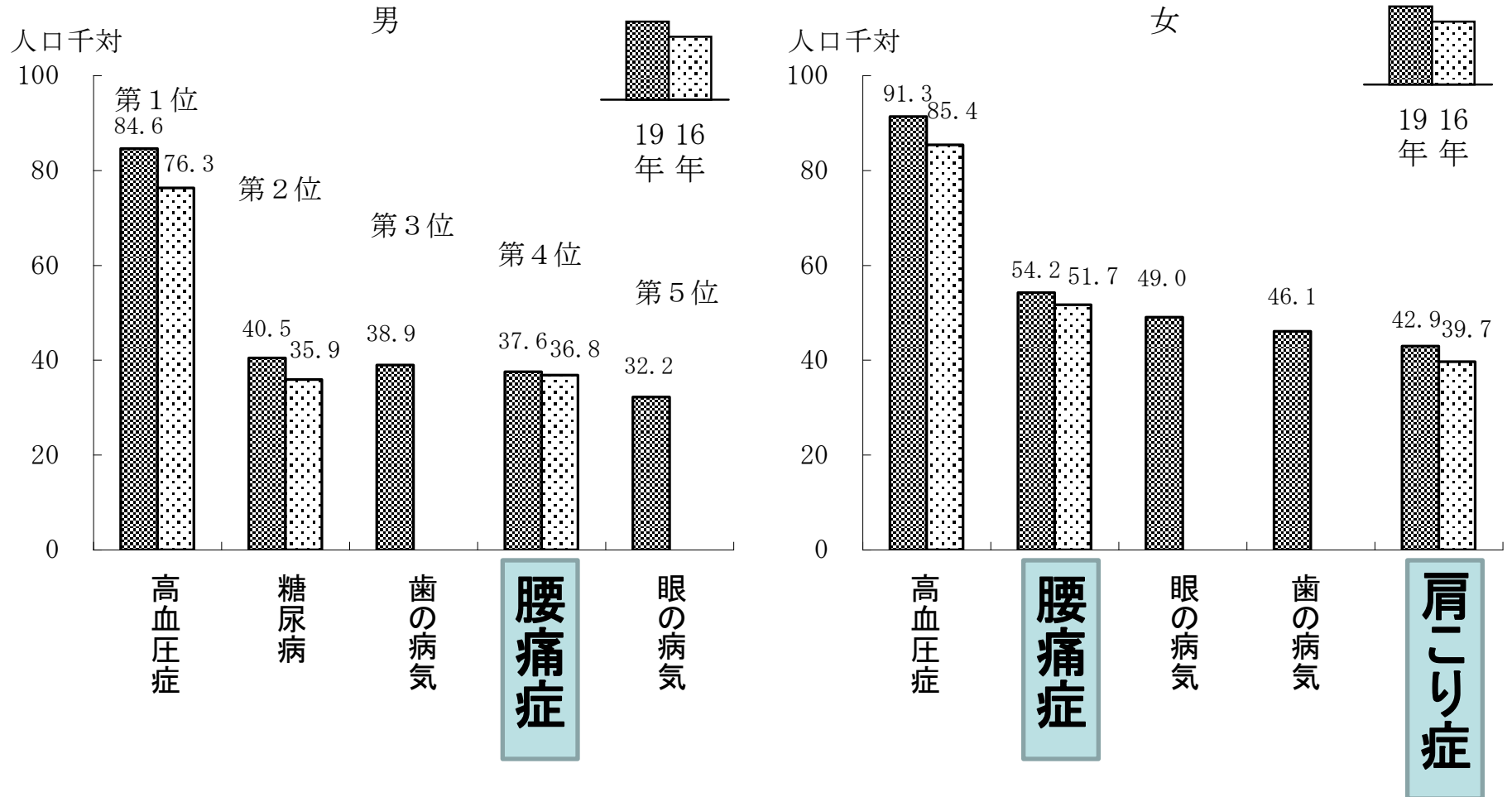
4. 慢性閉塞性肺疾患・・・1疾患

4. 睡眠障害・・・1疾患

施策のある疾患・・・11疾患

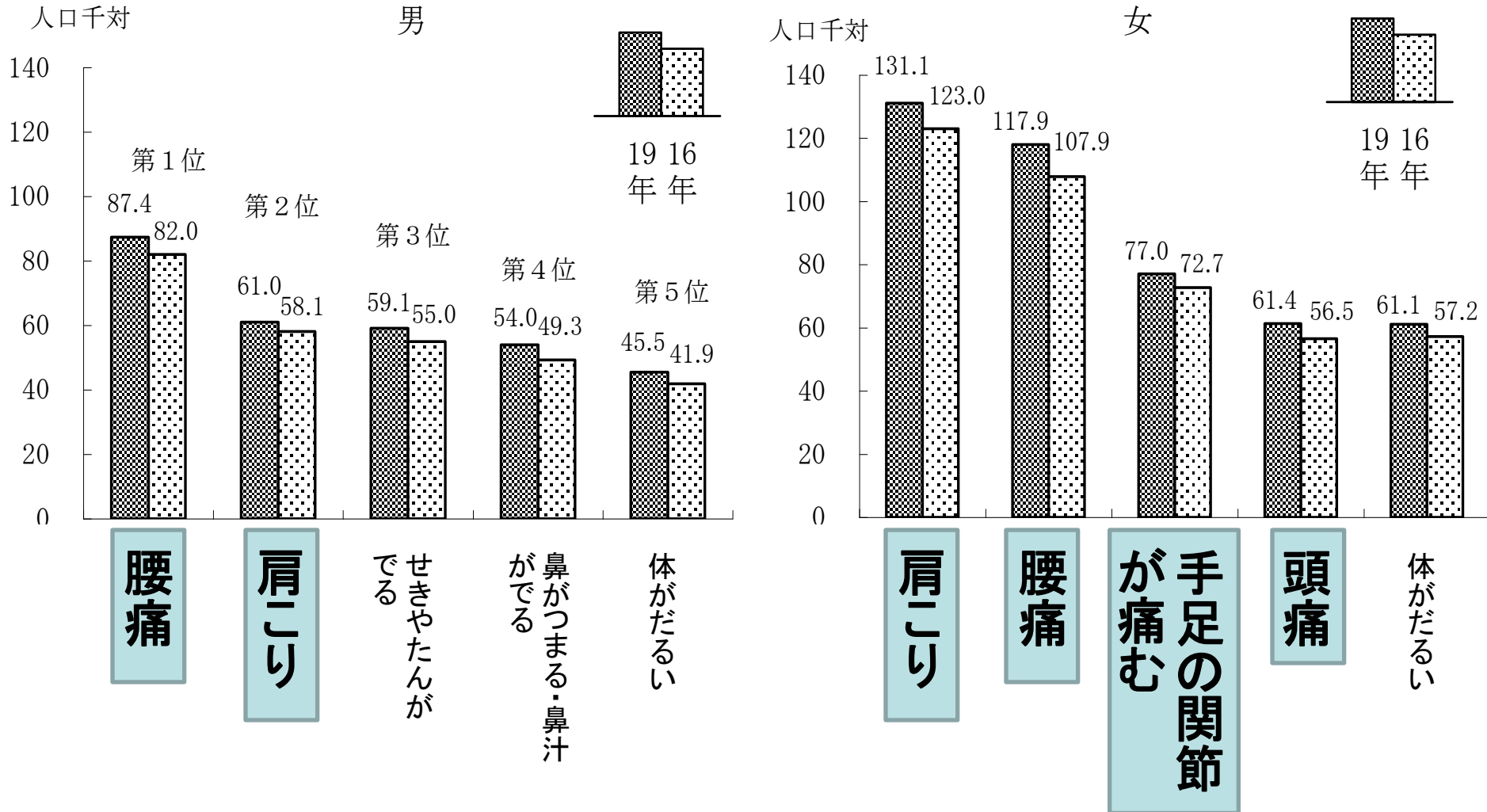
# 性別にみた通院者率の上位5傷病

(平成19年国民生活基礎調査より・複数回答)



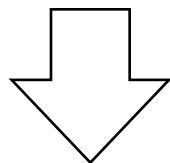
# 頻度の高い自覚症状

(平成19年国民生活基礎調査より)



# “the Decade of Pain Control and Research” “痛みの10年” (2001-2010)

- ・ 1998-1999年の全米における実態調査により、程度の高い慢性痛に悩む患者が成人人口の9%を上っていた。
- ・ 無効な治療やドクターショッピングによる医療費の浪費、痛みによる就労困難などによる社会経済の損失は年間約650億ドル(9兆円)と推計された。



2000年、米国議会は

「痛みの10年」(**Decade of Pain Control and Research**)宣言を採択

- ・ 米国全土にわたる慢性痛の実態調査、痛みの評価と治療基準の作成および実施
- ・ 医師の再教育、痛みを見直す国民週間の設定など
- ・ 痛みを体温、血圧、心拍、呼吸数に続く五つ目のバイタルサインとし、すべての患者に対し、痛みを評価する。

